

第3学年道徳学習指導案

日時 平成18年10月12日(木)5校時

学級 3年A組(男14名 女13名 計27名)

指導者 教諭 菊池 一洋

1 主題名 「人間への慈しみ」 内容項目 2-(2)(人間愛、感謝と思いやり)

2 資料名 「あふれる愛」 (出典「東京書籍 明日をひらく3」岩手県版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 2-(2)は、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心を持つ」ことをねらいとしている。

「人間愛の精神」とは、人間を尊重し、生命に対する畏敬の念に基づいてお互いを理解し合うなど、人間として生きていくうえでの根本的なものである。「思いやりの心」は、基本的に人間に対して向けられる心である。自分自身と比べて、温かく相手を推量、想像し、思慮を働かせる心の動きである。また、根底には「人間愛の精神」に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならず、単に同情やあわれみのように考えられるものではない。

中学生の時期は、他人とかわりをもつことの大切さを理解できるようになるが、自己中心的な判断で他を省みない言動をすることも多い。「人間愛の精神」と「思いやりの心」の大切さを理解し、自他ともにかげがえのない存在であることをこの時期に自覚することは大切なことだと考え、本主題を設定した。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について

学級全体としては、やさしさをもって立場の弱い級友に接することができる生徒がいる反面、自己中心的で「思いやりの心」がまだ十分でない生徒が多い。また、ふざけ半分で生命を失わせるような意味の言葉を軽々しく使う場面も見られる。道徳の時間に積極的に挙手・発言する生徒は少ないが、一人一人が自己の意見を持ち、より良く生活していこうとする姿勢がある。このような実態から、本資料を通して「人間愛の精神」と「思いやりの心」の大切さを理解させ、自他ともにかげがえのない存在であることを自覚させたい。

(3) 資料について

本資料は、人間愛を貫いたマザーテレサの実話である。沖守弘氏(作者)が、彼女の人間愛に感動して5年間密着取材して活動を追い、その言行などをまとめたものである。

インドのカルカッタ(現コルカタ)の修道女マザーテレサは、地獄絵のようなスラムの中で、ほとんど死にかけている老婆を見つけ、彼女にまだ息があると分かると、すぐに背負って病院に駆け込む。「助かる見込みのない患者を診る余裕がない」と断る院長に対して毅然とした態度で交渉し、ついに院長を説得することができる。その後マザーは「望まれてこの世に生まれてきた人間だから、せめて最期だけでも人間らしくさせてあげたい」として「死を待つ家」を設立し、活動を展開する。また、「自分はこの世に不必要と思われている人にこそ愛が必要だ」として活動を世界中に広げる。

彼女の人間愛を貫いた行動には少しの迷いもなく、矛盾もない。また、本資料には随所にマザーテレサの気持ちが良く読み取れる言葉が記載されており、マザーテレサの人間愛に生きる姿の尊さを知り、生徒たちが良く共感し、誰に対しても思いやりを持って接していく態度を養うために適切な資料である。

4 指導にあたって

導入では、マザーテレサの映像と肉声を用いて、授業の雰囲気と価値に対する興味・関心を高めたい。

展開では、地獄絵のようなカルカッタのスラムの様子を確認させるとともに、ほとんど死にかけている老婆でも背負って必死に病院へ急ぎ、院長に治療の交渉をするマザーテレサの優しさ・思いやりに気づかせる。さらに、「マザーテレサがどのような気持ちで『死を待つ人の家』をつくり活動を続けたのか」を中心的に考えさせ、マザーテレサの思いやりの心が単に哀れみや同情ではなく、深い理解と共感のある人間愛の心であることをつかませる。また、マザーテレサが先進国にも活動を広げたことを取り上げ、彼女の言葉を用いながら、自分たちも含めたすべての人間一人一人が愛されるべきかけがえのない存在であることを再認識させる。

終末では、授業から学んだことを記入させ、発表し合わせることで誰に対しても思いやりの心をもって接していこうとする気持ちを高揚させたい。

また、マザーテレサのDVDソフトの映像を導入・展開・終末の各場面で用いることにより、より写實的に資料をとらえさせるとともに、マザーテレサをより身近な存在として感じさせながら、授業に引き付けるよう工夫したい。

5 本時の指導

(1) ねらい

人間愛に生きる姿の尊さを知り、誰に対しても思いやりを持って接していく態度を養う。

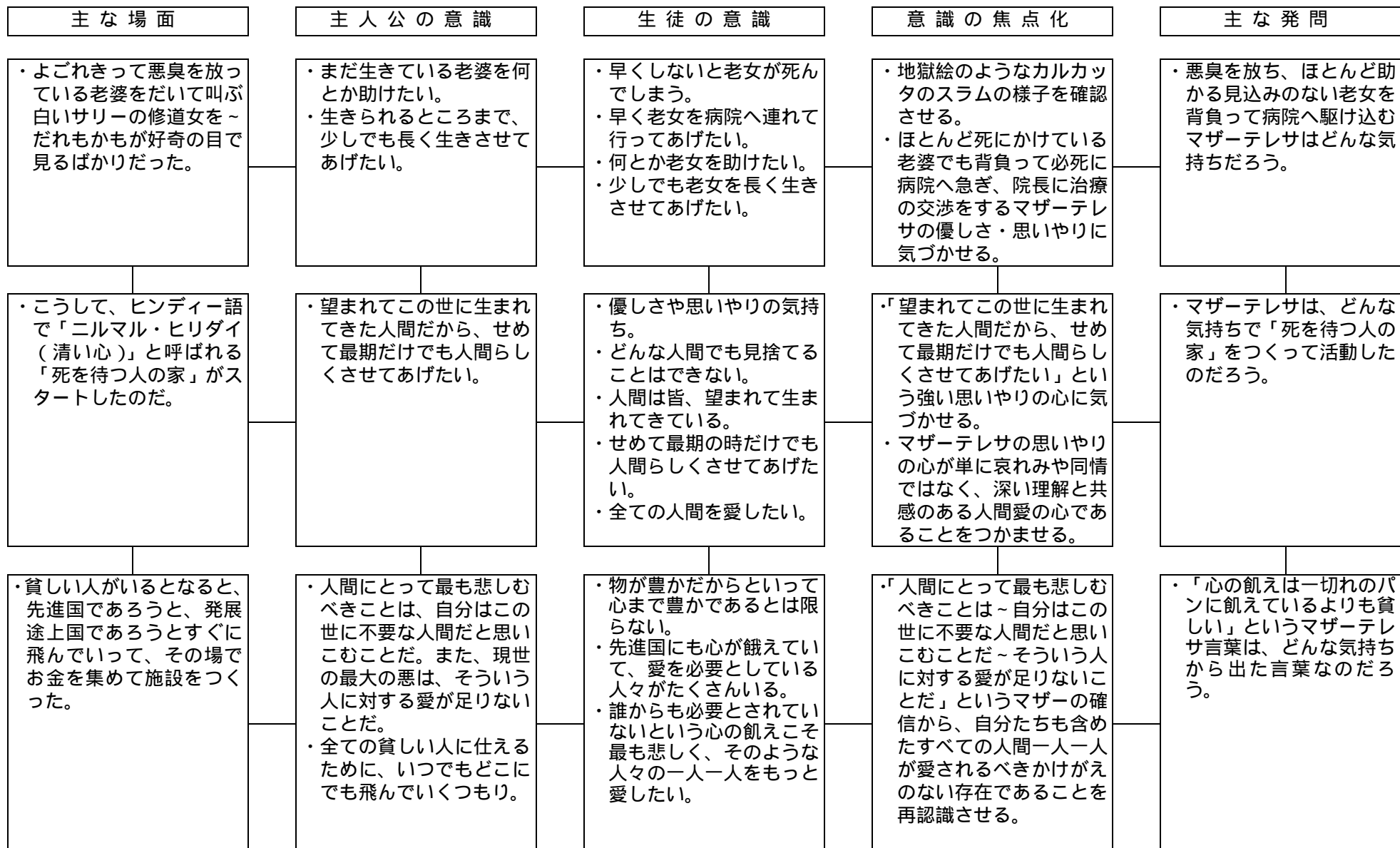
(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 7分	1 マザーテレサの映像を見て、この女性の名前や知っていることを自由に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> マザーテレサのことを知っている。 マザーテレサの名前は知らないが、見たことがある。 マザーテレサのことを知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界中の人々に慕われ、ノーベル平和賞も受賞したマザーテレサについて興味を持たせる。 視聴覚機器を活用し、「映像」と「肉声」を使って雰囲気を高める。
展開 40分	<p>2 資料「あふれる愛」で、マザーテレサの人間愛に生きる姿について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容についての状況把握を行う。 <p>悪臭を放ち、ほとんど助かる見込みのない老女を背負って病院へ駆け込むマザーテレサはどんな気持ちだろう。</p> <p>ひどい環境の場所を「さっそく使わせてもらいたい」と言ったマザーテレサはどんな気持ちになっていたのだろう。</p> <p>「心の飢えは一切れのパンに飢えているよりも貧しい」というマザーテレサの言葉は、どんな気持ちから出た言葉なのだろう。</p> <p>3 今日の授業から学んだことを書き、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 早くしないと老女が死んでしまう。 早く老女を病院へ連れて行ってあげたい。 何とか老女を助けたい。 少しでも老女を長く生きさせてあげたい。 優しさや思いやりの気持ち。 どんな人間でも見捨てることはできない。 人間は皆、望まれて生まれてきている。 せめて最期の時だけでも人間らしくさせてあげたい。(体を洗い清める。清潔な衣服に着替えさせる。髪を調える。しっかりと手を握る。目で語りかける。温かいスープを口に運ぶ。) 全ての人間を愛したい。 物が豊かだからといって心まで豊かであるとは限らない。 先進国にも心が餓えていて、愛を必要としている人々がたくさんいる。 誰からも必要とされていないという心の飢えこそ最も悲しく、そのような人々の一人一人をもっと愛したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料は事前に読ませておく。 地獄絵のようなカルカッタのスラムの様子を確認させる。 ほとんど死にかけている老婆でも背負って必死に病院へ急ぎ、院長に治療の交渉をするマザーテレサの優しさ・思いやりに気づかせる。 劣悪な環境の中でも喜んで「死を待つ人の家」をつくった気持ちに十分共感させたい。 「せめて最期だけでも人間らしくさせてあげたい」という強い思いやりの心に気づかせる。 マザーテレサの思いやりの心が単に哀れみや同情ではなく、深い理解と共感のある人間愛の心であることをつかませる。 「マザーテレサの言葉」から、自分たちも含めたすべての人間一人一人が愛されるべきかけがえのない存在であることを再認識させる。 授業を振り返らせ、再度マザーテレサの人間愛に生きる姿に共感させるとともに、友達の発表を聞きながら、誰に対しても思いやりの心を持って接していこうとする気持ちを高揚させる。
終末 3分	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 来日したマザーテレサが残した言葉についての説話をを行い、余韻を持たせる。

6 評価

人間愛に生きる姿の尊さを知り、誰に対しても思いやりを持って接していく態度を養うことができたか。

7 資料分析図 (あふれる愛)



板書計画

「あふれる愛」

マザーテレサ
の絵

- ・マザーと親しまれる
- ・修道女
- ・インドで活躍
- ・ノーベル平和賞受賞

カルカッタの
スラムの絵

病院へ駆け込む

- ・やさしさ
- ・思いやり
- ・早く病院へ連れていきたい
- ・何とか助けたい
- ・少しでも長生きさせてあげたい

「死を待つ人の家」を建設

「死を待つ人の家」の絵

- ・強い人間愛
- ・体を洗う、清潔な衣服
- ・手を握る
- ・語りかけ
- ・あたたかいスープ

- ・やさしさ、思いやりの気持ち
- ・どんな人間も見捨てることはできない
- ・最期の時だけでも人間らしくさせてあげたい。
- ・全ての人間を愛したい

世界中に活動を広げる

- ・人間愛の広がり

「心の飢えこそ最も悲しいこと」

「自分がこの世に不必要であると思ひ込む人ほど愛が必要」

「一人一人が愛されるべき大切な存在」